

2025 年 6 月 9 日

みずほマーケット・フラッシュ

再び利下げ圧力を強めるトランプ氏、FRB 議長後任人事への言及も

サマリー

6 月 6 日の海外市場では、実に多くのニュースフローが飛び交った。そもそも米 5 月雇用統計の公表が予定されていたうえ、日銀のバランスシート政策に関する観測報道、トランプ米大統領による利下げ要求などが見られた。なお、FRB 議長職の後任人事にまつわる発言も報じられている。現時点で後任人事について論じることは不毛であるものの、トランプ氏が低金利を好む人物であること、そもそも FRB は局面としては利下げサイクルに在ることなどに鑑みれば、「FRB 議長交代でのハト派期待」が高まる時間帯も今後訪れる可能性は十分にあるだろう。

再び利下げ圧力を強めるトランプ氏、FRB 議長後任人事への言及も

6 月 6 日の海外市場では、実に多くのニュースフローが飛び交った。そもそも米 5 月雇用統計の公表が予定されていたうえ、欧州時間には日銀のバランスシート政策に関する観測報道が、米国時間にはトランプ米大統領による利下げ要求などが見られた。そのほか、米中高官がロンドンにて会談を行う旨もトランプ氏から明らかにされている。

最も注目を集めたのは、トランプ氏による FRB 批判だったのだろう。具体的には「FRB が遅すぎるのは悲劇だ。欧州は 10 回利下げしているのに我々は 1 回もしてない。にもかかわらず我が国は非常によくやっている。フルポイント(▲1%)やれ、ロケット燃料を！」「利下げが遅すぎたなら、大幅に金利を下げるができる。インフレは事実上もう存在しないが、もしまた戻ってきた場合には対応するために金利を上げろ。非常に簡単だ。彼(パウエル議長)は我が国に大損させている。借入金利は高すぎる。」などと投稿している。しかし残念ながら、大きなニュースにこそなったが、市場の反応は非常に鈍い。「TACO トレード(Trump Always Chickens Out)」などという造語が存在することからもわかる通り、金融市場はもはやトランプ氏のやり口や発言に慣れを見せているように映る。

ちなみに、トランプ氏がこのタイミングで FRB に対し利下げ要求を行ったのか理由は定かではないが、米雇用統計とは無関係ではないだろう。トランプ氏は雇用統計ウォッチャーとして有名であり、過去も雇用統計公表後に様々な発言を繰り返してきた。結果が良ければ自身の成果として喧伝し、悪ければ政敵や FRB に対する批判に使う、というのが今までの流れである。

ところで 6 日には、トランプ氏と記者団とのやり取りで、パウエル議長の後任問題についても言及があった。パウエル議長の任期は 2026 年 5 月までだが、現在後任候補として市場でその名前が挙がっているのが、ケビン・ウォーシュ元 FRB 理事である。トランプ氏はウォーシュ氏について聞かれた際に、「非常に評価されている人物だ」とも述べた。そのほか、後任候補について具体的には言

国際為替部

マーケット・エコノミスト

長谷川 久悟

03-3242-7065

kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

及しなかったものの、「近く発表する」「とても良いアイデアがある」などと説明している。

現時点で後任人事について分析を行うことにあまり意味は感じないものの、市場は常に極端なシナリオを事実在先んじて(時には誤って)織り込むものだ。トランプ氏が低金利を好む人物であること、そもそも FRB は局面としては利下げサイクルに在ることなどに鑑みれば、「FRB 議長交代でのハト派期待」が高まる時間帯も今後訪れる可能性は十分にあるだろう。とはいえ、議長職には、上院の承認も必要である。現在、減税法案実現に関してトランプ氏自身が上院議員に対し直接説得にあたっていることから分かる通り、トランプ氏が上院をコントロールしている訳では無いことには、注意が必要である。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。